



本市では昭和46年に、同40年代前半までの歴史をまとめた『新版池田市史』概説編を刊行しました。それから数十年、池田も大きく変貌し、また新しい発見や資料も出てきました。これらの成果を、歴史学をはじめさまざまな分野での最新の視点に立ち、あらためて池田の歴史の経過を見つめ直そうと、新たな市史『新修池田市史』を編纂することになりました。

これまでに多くの方にご協力いただきながら、地理・考古・古代・中世・近世、さらに民俗の各分野を第一巻(地理・考古・古代・中世編)・第二巻(近世編)・第五巻(民俗編)の三冊に収録・刊行しました。

『新修池田市史』の編纂

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより①

現在は明治維新以降から終戦までを第三巻に、戦後から平成までを第四巻にまとめる作業を行っています。

なかなか集まらない資料

ところで、市史を編纂するためには、まず、その元となる資料を収集しなければなりません。資料の内容は政治・経済・教育・文化などさまざまな分野にわたり、収集先も個人のお宅から市役所、学校、各種事業所、さらには大阪府や国の機関まで、実に多方面に及びます。

今回、新しく発見されたり、提供いただいたりした資料は、かなりの数に上ります。しかし、その一方で、前回の編纂時以降、残念ながら失われてしまった資料も多く、必要なものが十分に収集できているとはいえません。結局、調べたい事柄の答えが見つからなかった、ということも珍しくはないのです。

「市史編纂だより」を通して

現在、こうした資料収集・調査を一つひとつ積み重ねながら作業を進めているところですが、第三巻・第四巻の刊行までには、まだ時間を要します。そこで、次回からこのコーナーでは、編纂の過程で浮かび上がったエピソードや、新しく分かった事柄などを、順次紹介していくことにしました。このコーナーを通して



資料調査の作業風景

池田の歴史を垣間見ていただければと思います。

また、資料の収集には皆さんの協力が不可欠です。古い写真や情報など、どのようなことでも結構です。市史編纂担当までお知らせください。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第一巻3500円、第二巻4200円、第三巻(近代編)編纂中、第四巻(現代編)編纂中、第五巻4500円

★販売場所

社会教育課(市役所5階)、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、青年の家、総合スポーツセンター、池田城跡公園売店、耕文堂書店、甲川正文堂  
※郵送でも販売しています。

問い合わせは社会教育課市史編纂担当(城山町3 45、城山勤労者センター内、☎753・2904)

火曜日、祝休日は休館

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                             | 開館時間/休館日/料金                                                          | 地図 |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「池田文化の顕彰<br>—蝸牛庵文庫の資料より—」～2/20(日)<br>☆ミュージアムミニトーク(2/20日14:00、聴講無料)                     | ●9:00～17:00<br>●月・火曜日、祝日、月末、2/23(水)～27(日)<br>●無料                     |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●早春展「フォルムにみる逸翁の世界—コレクションからたどる逸翁の生涯—」～3/6(日)<br>☆講演会「お茶と小林先生」茶道研究者・近藤良朋さん(2/19日14:00～15:30) | ●10:00～17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円         |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | 展示なし                                                                                       | ●9:30～17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、祝日(月曜の場合は翌日も)、第1水曜日<br>●200円(図書館は無料) |    |

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより②

旧暦から新暦へ

明治政府と太陽暦

今、私たちが使っている暦は太陽の運行に基づく太陽暦ですが、昔は月の運行に加え、太陽の運行も考慮した太陰太陽暦が用いられていました。暦は中国から朝鮮半島を通じて、6世紀半ばごろ日本に伝えられたとされています。当時の暦はこの太陰太陽暦で、やがて、江戸時代になると日本で独自に作り替えられました。そして幾度かの修正が加えられた結果、幕末には、この種の暦としては、世界で最も精密なものの一つになっ



明治26年の暦（豊島卓氏提供）

ていました。

しかし、明治時代に入ると、明治新政府は西洋の制度を導入して近代化を進め、暦も欧米と同じ太陽暦としました。明治5年（1872）12月3日、太陰太陽暦は廃止され、新暦の明治6年1月1日となったのです。旧暦から新暦への切り替えは政府の発表からわずか1カ月。人々はこの改暦をどのように受け止めたのでしょうか。当時の様子を池田の旧家の日記から要約してみましよう。

消えた日

「改正の新暦に替わったので、今日明治5年12月2日が本年の大晦日ということになった。今までの暦は今日限りで、明日の3日は、明治6年1月1日ということになる…。（原文は文語体、以下同じ）。暦の切り替えにあたって、一気に例年よりも一カ月ほど早く新年が来ることになったのですから、この年の暮れは、さぞや落ち着かない年の瀬だったことでしょう。

日記では、さらに続けて「旧暦の（今年の）12月29日は亡き母の25回忌にあたる日だが、その日が無くなってしまえば、且つ多忙の時期でもあるので、11月27日に繰り上げた」。本来ならそのまま迎えるはずの日が、急に無くなってしまっ

たのですから、日本各地で、このようにいろいろと困ったことや混乱が起きたに違いありません。実際、明治政府は旧暦から新暦への変更に伴う、課税の処理や証書の日付の扱いなど、矢継ぎ早に基準を打ち出していきます。いずれにせよ、長年続いてきた生活の基本の暦が変わったのですから、その影響は随分と大きかったのではないのでしょうか。

旧暦への思い

ところで、この日記の筆者の家では、年が明けてからの旧暦の新年1月1日にあたる日にも、再び家族が早起きをして雑煮を食べたり、神社を拝礼したり、蔵開きを行ったりと、あらためてわざわざ正月の行事を行っています。そして少なくとも明治末ごろまでは、1年に2回の正月を迎えています。長年慣れ親しんだ旧暦や、それに基づく生活習慣へのこだわりも、一方では強く、簡単に変わるものではなかったようです。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第一巻3500円、第2巻4200円、第三巻（近代編）編纂中、第四巻（現代編）編纂中、第五巻4500円

問い合わせや資料の提供は、社会教育課市史編纂担当（☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

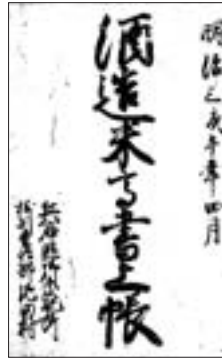
| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                    | 開館時間/休館日/料金                                                                             | 地図 |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「平成16年度新収資料公開展」3/2(水)～5/8(日)<br>☆ミュージアムミニトーク(3/13日14:00、聴講無料) | ●9:00～17:00<br>●月・火曜日、祝日、月末<br>●無料<br>※4月から開館時間が10:00～18:00に、休館日が月・火曜日、祝日に変わります(22面参照)。 |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●早春展「フォルムにみる逸翁の世界—コレクションからたどる逸翁の生涯—」<br>～3/6(日)                   | ●10:00～17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、3/7(月)～31日(木)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円              |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | ●展示なし                                                             | ●9:30～17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、祝日(月曜の場合は翌日も)、第1水曜日<br>●200円(図書館は無料)                    |    |

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより③

摂津・豊崎・麻田・兵庫

「兵庫県」池田村



酒造米高書上帳  
(豊島卓氏提供)

写真をご覧ください。これは明治3年(1870)、池田村の酒造米の石高を記した帳簿です。左下の部分、よく見ると「兵庫県御支配所撰州豊島郡池田村」となっています。大阪府の間違いでは? と思われるかもしれませんが、実際に池田市域が「兵庫県」、さらには「摂津県」「豊崎県」「麻田県」という、今では全く耳慣れない県だった時期があったのです。

目まぐるしく変わる所管

江戸時代、池田市域には20を超える村々がありました。地域や時代によってこれらの村々の領主は異なり、さらに、一つの村を複数の領主が支配するなど、支配形態は複雑でした。

政権が徳川幕府から明治政府へ移ると、新政権は旧来の複雑な支配形態の整理・統合に乗り出します。しかし、従来の制度の改革は一筋縄ではいきませんでした。

畑村(現池田市畑)の場合を見てみましょう。畑村は幕末、村高の大半が麻田藩青木家領、ごく一部が幕府直轄代官・斎藤六蔵支配でした。麻田藩領は明治4年(1871)7月、廃藩置県によって麻田藩から麻田県になりました。一方の斎藤六蔵支配地は、三田藩と尼崎藩への一時預かりの後、兵庫裁判所(明治元年3月)、大阪府司農局(同5月)、摂津県(同2年1月)へと次々と所管が変わります。さらに明治2年5月、摂津県は豊崎県と改称され、同年8月には廃止、所管は兵庫県へ移されました(『大阪府全志』より)。

こうした所管の変遷は村々によって異なり、今日のように池田市域がすべて大阪府の所管になったのは、同4年11月のことでした。

短命だった新たな県

ところで、明治2年、今在家村・轟木村・宮の前村(いずれも現池田市)が小坂田村(現伊丹市)の村の井戸の掘削をめぐり、訴訟を起こしました。翌3年、和解が成立しました。翌3年、和解が成立しました。翌3年、和解が成立しました。

訴えは当初の豊崎県から兵庫県に回され、最終的には麻田藩から双方の村々が呼び出され、和解を命ぜられるという経過をたどっています。訴え出た村々の所管が、今在家村は豊崎県と麻田藩、轟木村と宮の前村は麻田藩、小坂田村は兵庫県と、それぞれ異なっていた上、新しい県は短期間で廃止されるなどしたため、訴訟一つをとってもこのような煩雑なものとなったのでしよう。徳川幕府から明治新政権、そして目まぐるしく変わる所管。それはまさに新体制確立への産みの苦しみの軌跡だったのかもしれない。一方、当時の人々は、この変革をどのように受け止めていたのでしょうか。残念ながら人々の思いなどは記録には残りなく、これまでに収集した史料からは、うかがい知ることができません。当時を生きた人々が何を感じ何を思ったか、これを明らかにするのはなかなか難しいことです。しかし、それも市史を編纂する上で大切な視点なのです。



▲摂津県・豊崎県庁所在地跡の碑  
(大阪市東淀川区宗禅寺)

問い合わせは市史編纂担当(☎753・2904)

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                          | 開館時間/休館日/料金                                                          | 地図 |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「平成16年度新収資料公開展」 ~5/8(日)<br>☆ミュージアムミニトーク(4/10日14:00、聴講無料)                            | ●10:00~18:00<br>●月・火曜日、祝日<br>●無料                                     |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●春季展「信仰のかたち—宗教作品から探る日本人の心—」<br>4/1(金)~6/12(日)<br>☆講演会「外国人の目から見る日本人の宗教心」(5/7日14:00、聴講無料) | ●10:00~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円         |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | ●小林一三伝—偉大な企業家の生涯— 4/1(金)~5/15(日)<br>☆講演会「身近にみた人間小林一三翁」(4/24日14:00、聴講300円)               | ●9:30~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、祝日(月曜の場合は翌日も)、第1水曜日<br>●200円(図書館は無料) |    |



昭和10年当時の池田公会堂（歴史民俗資料館蔵「池田公会堂竣工記念給葉書」より）

**田んぼの中の白亜の殿堂**  
昭和10年（1935）2月、今の市役所がある場所に鉄筋コンクリートの堂々たる建物が完成しました。池田公会堂です。近代ゴシック式の2階建、座席数700の大集会室、貴賓室、映写室、喫茶室、水洗トイレ、屋上の一般遊歩場など、竣工記念の資料には、当時最新の近代的設備が記されています。周りに高い建物もなく、田畑などが広がる中、さぞかし目立ったことでしょう。

池田公会堂と田村駒治郎



市史編纂だより④

公会堂から市庁舎へ

昭和14年（1939）4月29日、池田が市制を施行した当日、開庁式と祝賀会がこの公会堂で行われ、いわば池田市出発の地となりました。同16年からは市庁舎として用いられましたが、同25年、現池田駅前公園に新たな庁舎が設けられると、同47年の現庁舎建設のために取り壊されるまで、再び公会堂として映画や集会、講演などで多くの市民に親しまれました。

田村駒治郎の篤志

さて、この公会堂は、繊維業「田村駒」の創始者である初代田村駒治郎の寄贈によるものです。彼は幕末の慶応2年（1866）に当時の池田村で誕生、若いころからその商才を發揮し、明治27年（1894）、大阪でモスリンなどの洋反物を扱う商店を創業しました。これが後の「田村駒」となります。大正10年（1921）には大阪商業会議所議員に選出され、大阪を代表する実業家とな

田村駒治郎の胸像（歴史民俗資料館蔵）



るに至り、さらに同年、大阪市会議員に、大正14年には貴族院議員に当選、政界でも大いに活躍しました。

昭和6年（1931）に死去、その遺言に基づく郷土池田への寄付金のうち、当時としては巨額の8万円で公会堂が建設されました。この建設を記念して彼の胸像が作られ、公会堂玄関ホールに設置されていました。今、この像は歴史民俗資料館で見ることができま

★池田市史の刊行状況

- 『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻（近代編）編纂中、第4巻（現代編）編纂中、第5巻4500円

★販売場所

社会教育課（市役所5階）、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、総合スポーツセンター、池田城跡公園売店、耕文堂書店、甲川正文堂

問い合わせは市史編纂担当（☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名（期間）/みどころほか                                                                                   | 開館時間/休館日/料金                                                    | 地図 |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「平成16年度新収資料公開展」～5/8日<br>●企画展「義経—江戸時代の武者絵本に見る—」5/18日～7月31日(日)<br>☆ミュージアムミニトーク（5/8日）14:00、聴講無料 | ●10:00～18:00<br>●月・火曜日、祝日、5/11(水)～15(日)<br>●無料                 |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●春季展「信仰のかたち—宗教作品から探る日本の心—」～6/12日<br>☆講演会「外国人の目から見る日本人の宗教心」(5/7日)14:00、聴講無料                       | ●10:00～17:00（入館は16:30まで）<br>●月曜日<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円   |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | ●小林一三伝—偉大な企業家の生涯—～5/15日                                                                          | ●9:30～17:00（入館は16:30まで）<br>●月曜日（2日は開館）、5/6(金)<br>●200円（図書館は無料） |    |

# 歴史散歩

## わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑤

### まちの中の牧場

#### 池田小学校裏の小林牧場

牛乳といえば、最近では紙パック入りをスーパーマーケットなどで購入することが多くなり、牛乳屋さん毎朝、瓶詰め牛乳を1軒1軒配達する姿もあまり見掛けなくなりました。ひと昔前までは、家々の玄関先には牛乳箱が備えつけられ、この箱から牛乳を取ってくるのが、子どもから仕事だったりしたものです。

さて、左の写真の牛乳箱は市内のあるお宅に今も残されているものです。箱の前面には乳牛の絵と「特別生牛乳 小林牧場」、側面には「池田市役所北へ二丁」などと記されています。1丁という約100坪のこの小林牧場は、現在の池田小学



レトロな牛乳箱（菅原町で撮影）

校・さくら幼稚園の北側にありました。こんなまちの中にかつて牧場があったなんて、今ではとても想像が付きません。

#### 牛62頭、牛乳10万8千リットル

小林牧場は、明治20年（1887）の創業で、経営者は小林治郎兵衛氏。『昭和初期の池田』（平成7年発行）によると、昭和8年（1933）ごろ拡張され、広さは約10000坪（3300平方メートル）。昭和10年ごろには牛62頭が飼われ、牛乳生産高はおよそ600石（10万8000リットル）だったそうです。午前4時ごろから荷車で周辺町内をはじめ、石橋荘園（現荘園1・2丁目）や花屋敷、雲雀丘にまで配達され、値段は1本5銭、瓶を返すと4銭だったとあります。

戦時中は人手も飼料も不足し、牧場はやむなく閉鎖されましたが、戦後再開。昭和39年ごろまで、約20頭の乳牛の乳が毎日、豊中の太田牧場へ出荷されていたそうです。

#### ヨーグルト（長寿乳）も

ところで、池田の人々はいつごろから牛乳を飲んでいたのでしょいか。小林牧場の創業が明治20年ですので、このころには既にある程度の需要があったと思われる。また、大正時代の同牧場の広告にはヨーグルトも登場し、乳製品が池田でも次第に広まりつつあったようです。



のどかな放牧風景（大和町小林氏提供）

かつて市内には、小林牧場のほかに鉢塚や石橋・旭丘などにも牧場があったようです。市史編纂担当では池田に関するさまざまな資料を集めています。市内にあった牧場の資料や写真、あるいは、「こんな古い物が出てきた」など、どんなことでも結構です。情報をお寄せください。

#### ★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻（近代編）編纂中、第4巻（現代編）編纂中、第5巻4500円

#### ★販売場所

社会教育課（市役所5階）、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、総合スポーツセンター、池田城跡公園売店、耕文堂書店、甲川正文堂

問い合わせは市史編纂担当（☎753・2904）

## みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名（期間）/みどころほか                                                                                 | 開館時間/休館日/料金                                                                 | 地図 |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「義経—江戸時代の武者絵本に見る—」<br>～7月31日(日)<br>☆ミュージアムミニトーク（6/19(日)14:00、聴講無料）                         | ●10:00～18:00<br>●月・火曜日<br>●無料                                               |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●春季展「信仰のかたち—宗教作品から探る日本の心—」<br>～6/12(日)<br>●夏季展「三代の賢人たち」<br>7/9(土)～8/14(日)<br>～逸翁と同時代の文人・画人・陶工～ | ●10:00～17:00（入館は16:30まで）<br>●月曜日、6/13(月)～7/8(金)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円 |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | 展示なし（図書館のみ開館）                                                                                  | ●9:30～17:00（入館は16:30まで）<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日<br>●200円（図書館は無料）                  |    |

# 歴史散歩



## 写真で見る小林牧場

### わがまち 歴史散歩

市史編集だより⑥

②

①

市史編集担当では池田に関するさまざまな資料を集めています。どんなことでも結構ですので、情報をお寄せください。

いかがでしょうか。記録や年配の方々のお話から想像していた光景が写真では、さらに生き生きと目の前によみがえってきます。

④ 配送用のそのいの自転車と荷車  
池田や川西など、広域の配送をカバーするにふさわしい車列です。

③ 小林牧場の販売部店先  
現在の市役所正門玄関前の通りを、五月山に向かって進んだ所に位置していました。看板には低温牛乳や高温牛乳のほか、生バターなどの広告も見えています。

① 小林牧場の牛舎  
一時期は60頭近くの乳牛がいたといえます。

② 牛乳殺菌設備による作業  
特に写真は、今までまったく目にする事ができなかった、小林牧場の様子が鮮明に記録されたものばかりです。前回は、それらのうち1点しか掲載できませんでしたので、今回、さらにいくつかをご紹介します。

先月号で池田小学校裏にあった小林牧場を紹介しましたが、その際、元経営者の家族の方から、貴重な話と写真を提供してもらったことができました。



④

③

### ★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻(近代編)編纂中、第4巻(現代編)編纂中、第5巻4500円

問い合わせは市史編集担当 ☎753・2904

## みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                       | 開館時間/休館日/料金                                                           | 地図 |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「義経—江戸時代の武者絵本に見る—」<br>～7/31(日)<br>☆ミュージアムミニトーク (7/17(日)14:00、聴講無料)               | ●10:00～18:00<br>●月・火曜日、祝日<br>●無料                                      |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●夏季展「三代の賢人たち—逸翁と同時代の文人・画人・陶工—」<br>7/9(土)～8/14(日)<br>☆講演会「時絵が語るもの」(7/23(土)14:00、聴講無料) | ●10:00～17:00 (入館は16:30まで)<br>●月曜日、～7/8(金)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円 |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | 展示なし                                                                                 | ●9:30～17:00 (入館は16:30まで)<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜日の場合は翌日も)<br>●無料         |    |

## 池田の先人と川西

### 花屋敷と細原氏

阪急宝塚線の「川西能勢口」駅と「雲雀丘花屋敷」駅の間の沿線山手側、栄根寺跡の近くに「花屋敷荘園開拓人・細原茂雄翁記念碑」が立っています。この細原氏とは、明治から昭和初期にかけて、当時の池田を代表する料亭「めん茂楼」の当主だった人物です。「めん茂楼」については、次号であらためてご紹介します。

関西を代表する住宅街でもある花屋敷の開発は大正初期に始まり、昭和初期にかけて多くの人々がかかわりました。細原氏もその一人だったのでしょうか。その詳細はほとんど分かりませんが、少なくとも昭和の初めごろに、料亭経営の傍ら、現地近



くに事務所を置き、「郊外住宅の理想郷」の宣伝とともに、1区画当たり100坪以上の区画分譲を行っていたようです。

### 釣鐘火にも出資

また、猪名川を挟んで池田からも遠望できる川西市小戸の釣鐘山の祭事にも、同氏が深くかかわっています。

この小高い山では現在、毎年8月15日に、大きく釣鐘型に電飾がともされます。これは、もともとは池田のがんがら火のように、実際に釣鐘型に火をとすものでした。『川西市史』によると、大正のころは5年に一度行われていたのが、昭和に入ると、経費の点などからその実施すらも危ぶまれる事態となりました。このとき、釣鐘火を毎年点火して欲しいとの依頼とともに、多額の寄付を申し出たのが細原氏だったとあります。祭事の衣装もこれを機に、同氏の寄贈による釣鐘火のデザインの法被に変わったようです。

昭和12年(1937)、日中戦争のため釣鐘火は中止され、その後再開されることはありませんでした。江戸時代から続いたこの伝統行事の最後は、池田の人の手で華やかに飾られたといえるのかもしれませんが。

### 川西鶴之荘と北田氏

一方、今でも呉服橋西側から阪急「川西能勢口」駅にかけて整然と広



現在の鶴之荘風景

がる鶴之荘と呼ばれる住宅地は、池田出身で、後に池田満寿美住宅地の開発も手掛けた北田栄太郎という人物によって、大正初めに造られました。

このときの住宅地パンフレットには、日常品は「…一たび呉服橋を渡れば池田町に於て総ての供給完全せり」とうたわれていて、そのころの川西と池田の様子をうかがわせます。当時、池田が北摂を代表する町場であったのに対し、呉服橋を渡ったこの場所は、一面に田畑が広がっていました。そこにこつぜんと姿を現した、この鶴之荘こそが、川西市域で初めてできた本格的な住宅地だったのです。4万坪に及ぶ造成地は、大正3年(1914)ごろから順次分譲され、その後の同市の市街地形成・発展に多大な影響を与えました。

問い合わせは市史編纂担当(☎753・2904)

## みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                        | 開館時間/休館日/料金                                                                  | 地図 |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「池田ゆかりの画人たち」<br>8月10日(水)~9月4日(日)<br>☆ミュージアムミニトーク(8/21(日)14:00、聴講無料)               | ●10:00~18:00<br>●月・火曜日、9/7(水)~10/20(木)<br>●無料                                |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●夏季展「三代の賢人たち—逸翁と同時代の文人・画人・陶工—」<br>~8/14(日)<br>●秋季展「雅美と超俗—琳派と文人画派—」<br>9/17(土)~12/4(日) | ●10:00~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、8/15(月)~9/16(金)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円 |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | 展示なし(図書館のみ開館)                                                                         | ●9:30~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日<br>●200円(図書館は無料)                   |    |



「めんも坂」前の「めん茂楼」の姿と推定される明治初期の貴重な写真（木部自治会文書）

わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより®

「めん茂楼」と「めんも坂」  
料亭「めん茂楼」

昭和54年の春に「古美術風物品即売会」という1枚の広告が出ました。それは「本町通の一角にある築後180年の旧邸の取壊しをするので、ふすまや欄間、庭石や灯籠などを即売する」という内容です。この広告が明治から昭和初期にかけて、池田を代表する料亭だった「めん茂楼」の最後の様子を伝える資料です。大正10年の『池田町便覧』によると、この「めん茂楼」は明治9年の創業で、百畳敷の大広間、松竹梅や

雪月花などの名を冠した大小の室や茶室、さらには滝を備えた湯殿などがあり、「其の規模の大と設備の完璧と調理の優秀なるとは当地随一」と紹介されています。実際は、明治9年よりも古い資料に、「めん茂」という名前が会合の場所として登場していますから、その歴史はもう少しさかのぼるのかも知れません。その一風変わった名前ですが、当主の屋号が木綿屋だったことと、前に「茂」の文字があったことから「めん（綿）茂楼」と名付けられたようです。

めんも坂

ところで、この「めん茂楼」は、創業当初、今の阪急学園池田文庫の南端辺り、旧能勢街道に面した場所にあったようです。現在、この旧街道は直線の坂道です（下図参照）が、江戸時代の絵図をみると、階段で、しかも曲折していました。そのため

に荷車などは迂回して法園寺西側の急坂を上り下りしていました。この不便を解消するために、階段を取り除く改修工事が行われます。明治11年6月の竣工式当日、大阪府知事も来池し、「めん茂楼」の主人が祝いのもちをまいていますが、池田の旧家の日記に出てきます。この料亭の名前からか、この坂は一般に「めんも坂」と呼ばれていました。

「めん茂楼」は、あるときは御大典や記念催事の奉祝賀宴会場に、またあるときは団体の総会、池田署長や郡長や町長らの送別や顔見せの会場になるなど、いくつもの池田の歴史の会合や重要な人物が集う舞台を提供してきました。しかし、昭和15年、遊興に制約をもたらしした戦時体制の波に飲み込まれたのでしょうか、その幕を閉じました。今では、この坂にかろうじて、その名をとどめているのです。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1・2・5巻販売中、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中

★販売場所

城山勤労者センター、歴史民俗資料館、耕文堂書店、甲川正文堂ほか  
問い合わせは市史編纂担当（城山勤労者センター内、☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                          | 開館時間/休館日/料金                                                              | 地図 |
|--------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●企画展「池田ゆかりの画人たち」<br>～9月4日(日)            | ●10:00～18:00<br>●月・火曜日、9/7(水)～10/20(木)<br>●無料                            |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●秋季展「雅美と超俗—琳派と文人画派—」<br>9/17(土)～12/4(日) | ●10:00～17:00 (入館は16:30まで)<br>●月曜日、～9/16(金)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円   |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | 展示なし (図書館のみ開館)                          | ●9:30～17:00 (入館は16:30まで)<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日 (月曜の場合は翌日も)<br>●200円 (図書館は無料) |    |



わがまち  
歴史散歩

市史編纂だより⑨

温泉の共同洗濯場

水道事業の副産物

覚えている方も多いかもしれませんが、昭和40年過ぎまで、今の市役所駐車場の南隣に位置する場所に、共同洗濯場がありました。

もともと、同11年、水道敷設のための水源地として200以上の井水を掘削したものです。水量は十分だったのですが、有機物を含んでいいたために水源地として用いられることなく放棄されていたものが、やがて洗濯場として利用され始めたよう

です。同14年には、大阪朝日新聞に、その様子が紹介されています。「老若とりませて十数名のご婦人がズラっとお尻の放列をしき、ペチャクチャ…それはそれは賑やかな洗濯競演：すぐ横手の竹矢来（竹の垣）にぶらさがっている『洗濯物をこの柵にかけるべからず』という当局の大きな木札を黙殺して色とりどりの洗濯物が絢爛とその柵を被ひつくしている。」

掘削時に比べると水量は減ったも

この水は噴き出し続け、1年を通して温かく洗濯に適していたため、戦後には近所の住人がコンクリート製の共同洗濯場をつくり、多くの主婦らに利用されていました。

夢に終わった温泉場

同31年、宝塚で温泉噴出の話が出ると、にわかはこの洗濯場が脚光を浴びます。市が早速、専門家による分析調査を行ったところ、毎分200リットル、26度という当時の大阪府下では最高の水温の温泉であること、またアルカリ性で硫黄分や水素イオンも含まれ、神経痛などの療養にも適していることなどが判明。さらに、地質検査では有馬や宝塚と同じ温泉構造線に連なっていることも報告され、五月山公園と併せて温泉場を整備し、観光都市として売り出すという夢が一気に膨らみました。結局、財政的な面などから、手を付けられないことなく、何事もなかったかのように、共同洗濯場として使われ続けます。



この付近に洗濯場があった  
(写真手前の建物は職員会館)

同38年には、市職員会館が建ち、若干様相が変わったものの、この洗濯場は残り、従来と同じように地元の人々を中心ににぎわう様子が地方新聞に掲載されています。しかしやがて水脈が変わったのでしようか、次第に温水のゆう出量が減り、この洗濯場も無くなりました。

この洗濯場の写真をお持ちの方はご連絡ください。

おわびと訂正

9月1日号の記事で、昭和54年の古美術風物品即売会で売買されたのは、廃業しためん茂楼の品々でなく、後に料亭を新たに経営された方によって、全面的に手教示をいただきました。おわびして訂正いたします。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1・2・5巻販売中、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中

★販売場所

城山勤労者センター、歴史民俗資料館、耕文堂書店、甲川正文堂ほか  
問い合わせは市史編纂担当（城山勤労者センター内、☎753・2904）

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                                                | 開館時間/休館日/料金                                                           | 地図 |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●開館25周年記念特別展<br>「なにわのスーパーコンサルタント<br>—大根屋小右衛門の財政改革—」 10/21(金)~12/11(日)<br>☆特別展関連展示(市役所1階ロビー) 10/17(月)~10/21(金) | ●10:00~18:00<br>●月・火曜日、~10/20(木)<br>●無料                               |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●秋季展「雅美と超俗—琳派と文人画派—」 ~12/4(日)                                                                                 | ●10:00~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、10/11(火)<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円 |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | ●「上方和事の源流を求めて—坂田藤十郎と中村鴈治郎をつなぐもの—」 10/18(火)~11/20(日)<br>☆講演会「上方和事の今日明日」(11月13日(日)14:00、聴講料300円)                | ●9:30~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も)<br>●200円(図書館は無料) |    |

わがまち  
歴史散歩

市史編集だより⑩

池田の市戎

市

お酒をつくる杜氏(とうじ)の仕事歌に、「山家なれども池田は名所に十二の市がたつ」とあります。

大阪の都会からみれば、能勢の谷口である池田は、落語にあるように「シシ買い」に行くほどの「山家」ですが、実は、能勢の山の産物(炭やイノシシなど)と、都会や平野の産物・技術(鍛冶、のこぎり、古手「中古衣料」など)との交換の市町でした。今でも新町の辺りには、そんな谷口町の雰囲気を残した店があります。

現代では店は常設が普通ですが、昔は、河原や山と平野の境界の谷口に、定期的に臨時の掘っ立て小屋が並び、品物を見せる「見世(みせ)」が集まり、市が開かれました。普通は4の付く日(四日市)、8の付く日(八日市)と、月3回ほどですが、池田は12回もあった大きな市町だったのです。

戎

市では市神が勧請され、その信義

に基づき正しい商いが行われました。池田では、17世紀初頭にゑびす社を尼崎から勧請し、市ゑびす社として祀ったとされています(猪名川の下流尼崎は、池田と結びつきが深い)。戦前の池田では、年末、盛んに誓文払いという大売り出しが行われましたが、この誓文も本来は戎社に対する誓いです。

市とは、神様を「いつきまつる」場、イチキバを語源とし、市日には虹が立つといわれました。買い物をしなくても、ウインドーショッピングをする気分が良いですね。昔の人も心に虹や神様を秘めて、ワクワクかつ神聖な気持ちで、市に集まってきたのです。

池田の中心

ところで、現在では、呉服社境内に移され、池田のえべっさんとして親しまれているこの戎社ですが、かつては、サカエマチ2番街とハロ1ほんまちの二つの商店街が出合う「井戸の辻」とよばれた場所から少し東、現在の本町診療所の所にありました。

池田は、古くから山と都会の物を交換し、物を通じて心ワクワクさせて交流する場としてにぎわいました。「井戸の辻」は、能勢街道や順礼道が通る北摂交通の中心でもあり、池田のまちのへそともいえる場所だったのです。ちなみに、名前の由来となった井戸の石組みが、現在も道路



「井戸の辻」

下に残っているそうです。  
(池田市史編集副委員長・森栗茂一)

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻(地理・考古・古代・中世編) 3500円、第2巻(近世編) 4200円、第5巻(民俗編) 4500円は販売中。第3巻(近代編)と第4巻(現代編)は編纂中。

★販売場所

社会教育課(市役所5階)、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、総合スポーツセンター、池田城跡公園売店、耕文堂書店、甲川正文堂。

問い合わせ 社会教育課市史編集担当(城山町3-45、城山勤労者センター内、☎753・2904)

※火曜・祝休日は休館。

みゅうじあむ・がいど

| 館名                       | 展示名(期間)/みどころほか                                                                               | 開館時間/休館日/料金                                                           | 地図 |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----|
| 市立歴史民俗資料館<br>☎751・3019   | ●開館25周年記念特別展「なにわのスーパーコンサルタント—大根屋小右衛門の財政改革—」<br>☆記念講演会「財政改革はどうあるべきか」<br>(11月13日(日)14:00、聴講無料) | ●10:00~18:00<br>●月・火曜日、11/23(祝)<br>●無料                                |    |
| (財)逸翁美術館<br>☎751・3865    | ●秋季展「雅美と超俗—琳派と文人画派—」                                                                         | ●10:00~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日<br>●一般700円、学生500円、中学生以下200円          |    |
| (財)阪急学園池田文庫<br>☎751・3185 | ●「上方和事の源流を求めて—坂田藤十郎と中村鷹治郎をつなぐもの—」<br>☆講演会「上方和事の今日明日」<br>(11月13日(日)14:00、聴講料300円)             | ●9:30~17:00(入館は16:30まで)<br>●月曜日、第1水曜日、祝休日(月曜の場合は翌日も)<br>●200円(図書館は無料) |    |